研究課題	2.2　積雪変質モデルを用いた積雪層に関する研究
研究期間	平成 29 年度～平成 30 年度（2 年計画第 2 年度）
実施官署	東京管区気象台、宇都宮地方気象台、長野地方気象台、富山地方気象台、岐阜地方気象台
担当者	（東京管区気象台）○渡辺記秀、長屋幸一、髙村奈央、林悠平 （宇都宮地方気象台）本村栄朗、高木康征、浅尾宏紀、田中三樹男、伊佐見薫 （富山地方気象台）小林幸博、大沼啓人、松沢裕次、川端昇、川本直樹、柴山雄紀 （長野地方気象台）河野智一、寒河江俊昭、松澤直也、藤井拓也、明石亮 （岐阜地方気象台）涌井和夫、東屋義幸、青山大輔、早野冴由希、倉田麻貴、加藤弘明
担当研究官	［予報研究部］荒木健太郎 ［気候研究部］庭野匡思
目　的	気象研究所で開発された積雪変質モデルを用い、過去の積雪層（時系列）の構造を調査し、積雪層の雪質や安定度から、なだれの起こりやすさを新たな視点から検討を行い、なだれ注意報等の運用の改善に資することを目的とする。
目　標	本研究において調査を行った積雪変質モデルの結果や総観場・環境場の解析結果を利用して、なだれ注意報等の運用を改善する手法を検討することを目標とする。具体的には、なだれ注意報の発表期間をより適切に運用する手法を検討する。
研究の概要	（１）積雪変質モデルを用いた過去の積雪層の資料作成、アメダスデータを用いた積雪変質モデルによる積雪層（雪質、安定度）の把握、積雪実況値との比較 （２）総観場、環境場（気温、降水）の解析 （３）なだれ注意報等の運用の改善手法を検討 （４）研究成果のまとめ
平成 30 年度実施計画	（１）積雪変質モデルを用いた過去の積雪層の資料作成 ・平成 29 年度に未実施の積雪期について、アメダスデータを用いてモデル計算を行い、積雪層の雪質や安定度の把握を行う。 ・積雪変質モデルの精度検証のために、関係機関と協力して実際の積雪層の調査を実施し、積雪層の雪質のデータを取得する。 （２）総観場、環境場（気温、降水）の解析 平成 29 年度に未実施の事例について、総観場、環境場の解析を行い、気温場や降水の把握を行う。 （３）なだれ注意報の運用方針改善の検討 （１）、（２）の資料となだれ注意報発表状況から、なだれ注意報の運用の改善を検討する。 （４）研究成果のまとめ ・成果報告書（管区発行）の原稿を作成する。 ・イントラを活用し、研究結果について台内での知見共有及び管内共有を行う。
波及効果	なだれ注意報等の将来的な運用の改善に資することが見込まれる。また、なだれ注意報基準の見直しの方法が高度化される可能性がある点についても、有効な研究成果となる。